

キリスト教保育

年主題 ともに

論説

アニー・ライオン・ハウの
生涯と信仰 (1)
森田喜基

新連載

みんなで楽しむ楽器
山内信子

礼拝のお話
佐渡いずみ



2025 OCT. 10

このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。

聖書 口語訳聖書・コロサイ人への手紙2章6～7

パウロはその生涯で、三回の全行程九千キロに及ぶ旅行をし、キリスト・イエスの名を小アジアの奥地から、地中海沿岸の町々に伝えて歩いた。いったい何がパウロをして、このように燃えるような思いで働かしめたのだろうか。キリスト・イエスに対する深い感謝の思い、あふれるような感謝の思いが、彼をかりたてたのである。

パウロには重い負い目があった。彼ははじめ、キリストに敵対し、キリストを信じる者を迫害するために働いたのである。使徒行伝（使徒言行録）の記者は、「主の弟子たちに対する脅迫、殺害の息をはずませながら」と、その時期のパウロの姿を描いている（9章1）。彼がキリストにとらえられたのは、キリストを信じる者たちを追跡していたダマスコへの途上であったのである。そのような自分、キリストに敵対してやまない自分を、キリストはおゆるしになり、その上、キリストの使者としてお用いになる。パウロはそれを思うと、いてもたってもいられない思いがした。彼はコリント人への第一の手紙（コリントの信徒への手紙一）で次のように記している。「実際わたしは、神の教会を迫害したのであるから、使徒たちの中でいちばん小さい者であって、使徒と呼ばれる値うちのない者である」（15章9）。この恵みにどのようにお答えしたらよいのか、このあふれるような感謝の思いをどのように表現したらよいのか。彼は受けた恵みを、他に分かち与えるほかはないと思った。キリストの恵みの中に生かされているが、それに気づいていない人々、まだ、キリストの御名を知らず、感謝すべき術を知らない人々に、キリストの御名を伝えるほかはないと思った。それが、パウロをその苦しみに満ちた伝道者の生活に駆り立てていた理由であった。

パウロはコロサイの人々が聞いて信じた福音がいかに尊いものであるか、いかに力あるものであるかを繰り返し述べ、コロサイの人々がその福音にしっかりと立って、いささかも動揺することがあってはならないと語るのである。その根底にあるものは、あふれるばかりの感謝であり、それを愛の行為としてあらわしていったことを覚えたい。

江口 武憲・執筆（当時・日本福音ルーテル小岩教会牧師）

1974年「キリスト教保育」誌10月号より

キリスト教保育

第679号10月号



年主題 ともに

幼子とともにキリストへ
目次

〈巻頭言〉 人生は楕円球

迷わず前へ 小堀和人

〈論説〉 アニー・ライオン・ハウの

生涯と信仰(1) 森田喜基

図書紹介 安部美香 南部一朗

〈小論〉 保護者支援によって繋がる

親と子の尊厳

― 乳児院の実践から 中山明代

聖書にきく・お話 黒米理恵

【カリキュラム】

10月 月のねがい表

心にとめて 富田恵美子

実践報告 恩恵幼稚園

実践からの学び 西川 恵

心にとめて 武田 健

実践報告 清里聖ヨハネ保育園

実践からの学び 渡邊勇貴

20 16 15 6 4 3 2

39 34 32 31 26 24 23

〈連載〉 私たちのキリスト教保育 猪越 瞳

〈新連載〉 みんなで楽しむ楽器 山内信子

絵本のとびら 横田美樹

私たちの園では 松村幹子

目福口福耳福 一色輝生

礼拝のお話 佐渡いずみ

風 相良郁子 編集子 菅原陽子

連盟だより

カット 中畝治子 金井ユリ 藤安初枝 小鯛みのり

松成真理子 孤田とみ子 表紙絵 田中横子



67 66 55 53 50 49 44 40